

⑪基礎生物学委員会



基礎生物学委員会					
委員長	城石俊彦	副委員長	三村徹郎	幹事	杉本亜砂子
主な活動	審議内容 ・ 統合生物学委員長と相談の上、基礎生物学委員会は引き続き統合生物学委員会と合同で開催した。 ・ 第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（MP2020）についての状況報告と意見交換を行った（H30年10月4日、H31年4月25日）。 ・ 生物リズム分科会からの提言案「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」について、背景や経緯の説明の後審議した。特に大きな問題点等				

	の指摘は無かった（H30年10月4日）。 ・ゲノム科学分科会等からの提言案「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」について、背景や経緯の説明の後審議した。特に大きな問題点等の指摘は無かった（H31年4月25日）。 ・基礎生物学委員会の下部分科会からの提言案については、査読の必要性がないと判断した場合には、親委員会の査読を省略して第二部の査読に回すことを審議して、承認した（H31年4月25日）。
	意思の表出（※見込み含む）
	・H30年11月7日に生物リズム分科会からの提言「サマータイム導入の問題点：健康科学からの警鐘」が公表された。 ・R元年7月2日にゲノム科学分科会・臨床ゲノム医学分科会・腫瘍分科会の合同による提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」が公表された。
	開催シンポジウム等
	・H30年12月13日に公開シンポジウム「生活時間と健康：健康科学からみたサマータイムの問題点」が日本学術会議講堂において開催された。
開催状況	H30年10月4日、H31年4月25日に開催した。
今後の課題等	大型研究計画に関するマスタープラン（MP2020）の策定については、その意義や効果について引き続き議論する必要がある。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会					
委員長	岸本健雄	副委員長	寺北明久	幹事	深津武馬
主な活動	審議内容				
	・動物科学の新たな振興策を検討中である。 ・提言「国立自然史博物館設立の必要性」（平成28年5月17日発出）のフォローアップは着実に進んでいる。沖縄県では平成30年度予算で「国立自然史博物館誘致基礎調査」が実施され、それに基づいて令和元年6月20日には沖縄県庁ホームページに「国立自然史博物館の誘致について」と題したページが新たに開設された（https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/shizenshihakubutsukan.html）。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・「マスタープラン2020」には、大型施設計画「国立沖縄自然史博物館の設立ー東・東南アジアの自然の解明とビッグデータ自然史科学の実現による人類の持続可能性への貢献ー」を応募した。				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」を開催した（平成31年2月1日、那覇、沖縄銀行本				

	店 5 階ホール)。
開催状況	(3)平成 30 年 9 月 20 日 ; (4)令和元年 7 月 31 日
今後の課題等	予算の極度な制約により、分科会活動が停滞せざるを得なくなっている。

基礎生物学委員会統合生物学委員会合同 細胞生物学分科会					
委員長	菊池章	副委員長	中野明彦	幹事	米田悦啓、西原祥子
主な活動	審議内容				
	平成 30 年 11 月 9 日に日本学術会議で細胞生物学分科会を開催する予定であったが、学術会議の旅費等枯渇の問題がありやむなく中止した。平成 31 年 2 月に、次回の生命科学シンポジウムの開催が審議され、北海道で開催されることが決定された（渡辺雅彦教授担当）				
	意思の表出（※見込み含む）				
	該当なし。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 10 月 22 日に札幌で、高等学校生と理科担当教員を対象に、生命科学シンポジウムを開催する予定である。				
開催状況	令和元年 10 月 22 日の生命科学シンポジウム日に合わせて、細胞生物学分科会を開催する予定である。				
今後の課題等	令和 2 年以降の生命科学シンポジウムの開催について。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会合同 植物科学分科会					
委員長	西村いくこ	副委員長	三村徹郎	幹事	佐藤豊、山崎真巳
主な活動	審議内容				
	運営三役が集まり、今後の活動課題として、植物科学分野の大学院学生動向と、博士後期課程学生のキャリアパスの現状を調査することとした。現在、調査範囲の確定、調査資料の作成を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	上記調査結果によって、「報告」を作成する可能性を検討している。				
	開催シンポジウム等				

	上記調査を基にして、令和2年3月の（一社）日本植物生理学会年会において、シンポジウムを計画している。
開催状況	令和元年6月6日三役会議 分科会会議の開催はナシ
今後の課題等	分科会メンバーが多いため、限られた予算の中での会議の開催が困難に近い。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物科学分科会					
委員長	中野 明彦	副委員長	岸本 健雄	幹事	飯野雄一、石野史敏
主な活動	審議内容				
	高等学校などの中等教育の現場で用いられる生物科学分野の用語について、生物科学分野教育用語検討小委員会を再度設置し、各方面からの意見をフィードバックした改訂版を作成した。また、生物科学学会連合とも引き続き連携を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	報告「高等学校の生物教育における重要用語の選定について（改訂）」表出見込み。				
	開催シンポジウム等				
開催状況	平成30年7月18日、平成31年4月11日				
今後の課題等					

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生物物理学分科会および IUPAB 分科会					
委員長（上段生物物理学、下段 IUPAB）	原田慶恵 野地博行	副委員長	永井健治 上田昌宏	幹事	徳永万喜洋 永井健治
主な活動	審議内容				
	学術大型研究マスタープラン 2020 について審議 令和元年度公開シンポジウム、学術フォーラムの開催について審議 IUPAB congress 2023 の開催について審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	第23期に応募しマスタープラン2017に重点大型研究計画として採択された提言「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング科学の研究				

	推進」を改訂し、マスタープラン 2020 に同じく「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメー ジング研究所の設立計画」を継続提案した。
	開催シンポジウム等
	令和 2 年 3 月、公開シンポジウム「次世代統合バイオイメー ジングと数理の協働の展望」開催予定
開催状況	令和元年 5 月 29 日（開催済み） 令和 2 年 2 月（開催予定）（ともに両分科会の合同開催）
今後の課題等	IUPAB congress 2023 の開催に向けての準備

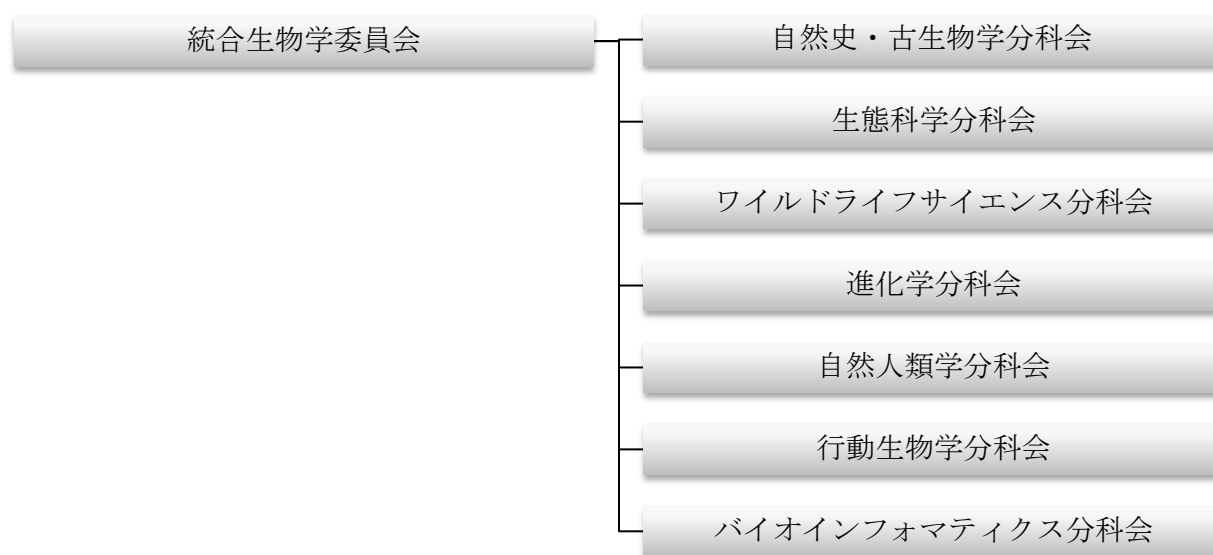
基礎生物学委員会 IUBS 分科会					
委員長	西田治文	副委員長	武田洋幸	幹事	窪川かおる
主な活動	審議内容				
	国際生物科学連合 IUBS の国別メンバーである日本として、IUBS の事業を支援するための対外および国内活動を検討、立案、実行する。令和元年 7 月 29 日からオスロで開催される第 33 回総会に西田（国代表）と村上委員（役員候補）を派遣する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	学術会議からの意見表出は予定していない。				
	開催シンポジウム等				
	なし。				
開催状況	令和元年 10 月 4 日にオスロ総会の報告を兼ねた分科会を開催する予定。				
今後の課題等	IUBS 新体制下での活動計画策定および、国内活動の具体化と広報について。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 総合微生物科学分科会					
委員長	松岡雅雄	副委員長	福井 学	幹事	上田一郎 春日文子
主な活動	審議内容				
	1. 日本微生物学連盟加盟学術団体間の連携を強化に向けて、その具体的な方策を検討している。開催するシンポジウム、学会等での連携を強化することを決定した。				
	2. 今後、開催するシンポジウムのテーマに関して検討した。				

	3. 今期の活動内容を議論した。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	平成 31 年 4 月 19 日、令和元年 9 月 20 日に総合微生物科学分科会、病原体学分科会, IUMS 分科会と合同会議開催
今後の課題等	総合微生物科学分科会の活動を活性化するために議論を深めていく必要がある。

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同 ゲノム科学分科会					
委員長	菅野純夫	副委員長	徳永勝士	幹事	佐々木裕之 本橋ほづみ
主な活動	審議内容				
	臨床ゲノム医学分科会とともに令和 2 年の「健康・医療戦略」の見直しに向け、ゲノム医療・精密医療の研究とその成果の臨床応用を効率的に推進していく上での方向性を、提言・シンポジウムという形で示すこととした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」（臨床ゲノム医学分科会、脳とこころ分科会、腫瘍分科会と合同）				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」（令和元年 6 月 1 日（土）、於 東京大学理学部 小柴記念ホール）				
開催状況	第 1 回 H30/7/24（木）10：00—12：00 於 日本学術会議 第 2 回 H31/2/23（木）18：00—19：00 於 東京大学医科学研究所				
今後の課題等	本年度の活動をさらに進める。				

⑫統合生物学委員会



統合生物学委員会					
委員長	巖佐 庸	副委員長	高木利久	幹事	山極壽一
主な活動	審議内容 [1]基礎生物学委員会との合同にて開催した会議において関連する分科会等の活動状況報告を行なった。日本学術会議全体の旅費が限られていることで会議開催の制約はあったが、様々な活動が活発に行われている。 [2]総会および第二部会での議論を紹介：山極会長は総合科学技術イノベーション会議(CISTI)に日本学術会議の意見を反映するように、積極的に発言している。国立大学の運営交付金の削減の問題点や、大学評価の基準などについて、課題別委員会を設けて議論を進めている。政府の省庁からの審議依頼を受けて、課題別委員会を立ち上げて議論をしているものが複数ある。委員会で意見を交換した。 [3]マスタープラン（大型研究計画）の提出と審査について： 委員会に関連した大型研究計画が複数申請されており、またその審査に関連した小委員会がそれぞれ別に作られそこで評価が行われている。大型研究計画に認められることの効果について議論した。日本学術会議で優れた大型研究計画（重点大型計画）と認定されても、文部科学省の研究環境基盤部会で審議されるロードマップに採択されて研究資金がつくとは限らない。しかし、面接にまで絞られた重点大型計画や大型研究計画として認められたプロジェクトは、日本学術会議で重要性が認定されたものとして、別の場面（例えば競争的資金の審査上等）で重要視されているとの意見があった。 意思の表出（※見込み含む）				

	[1] バイオインフォマティクス分科会が取りまとめた提言案「持続可能な生命科学のデータ基盤の整備に向けて」が、もうすぐ発出される。 [2] 生物科学分科会（中野委員長）からの「高等学校の生物教育における重要用語の選定（改訂）」については、基礎生物学委員会・統合生物学委員会とも委員会レベルの査読を省略して承認し、第二部に提案した。第二部での査読が行われ、そのあと幹事会での審議が行われる予定。 [3] 提言案「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」（城石）については、趣旨について丁寧な説明があり、議論をした。またメール会議では基礎生物学・統合生物学両委員会も反対意見はなかったため、提言案を第二部の査読にあげた。 [4] このほかにもいくつかの分科会で提言や報告の案が準備されている。
	開催シンポジウム等 統合生物学委員会自然人類学分科会は、日本人類学会、日本霊長類学会と共催で、令和元年(2019 年) 7 月 28 日に日本学術会議講堂で、「日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から」と題するシンポジウムを開催する。
開催状況	平成 30 年 10 月 4 日と平成 31 年 4 月 25 日。総会の開催時期に合わせて、第 1 日目もしくは第 2 日目の昼食時に、基礎生物学委員会と合同で開催してきた。
今後の課題等	

基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物学分科会					
委員長	松浦啓一	副委員長	大路樹生	幹事	窪川かおる
主な活動	審議内容				
	大学の学術標本や資料の保存・管理が危機的状況にあるためワーキンググループを組織して調査を行い、調査結果を解析中である。平成 28 年 5 月 17 日に発出した「国立自然史博物館設立の必要性」のフォローアップ活動を行っている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	大学の学術標本や資料に関する報告を作成する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	シンポジウム「国立自然史博物館の設立を目指して～沖縄の未来形成に果たす役割と責務～」を平成 31 年 2 月 1 日に那覇で開催した。				
開催状況	分科会を平成 31 年 1 月 8 日と令和元年 7 月 26 日に開催した。				
今後の課題等	大学の学術標本に関するシンポジウムなどを開催して広く社会に訴える必要がある。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 生態科学分科会					
委員長	吉田 丈人	副委員長	北島 薫	幹事	福井 学、森 章
主な活動	審議内容				
	- 委員の構成が前期分科会から大きく変更となり、とくに、若手や女性の委員が増えたことは今期分科会の特徴である。 - 予算不足の影響により、平成 30 年度下半期に予定していた分科会会議を令和元年度上半期以降に延期することとし、メールを利用して、大型研究計画、Future Earth、生物教育における重要用語などについて意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	令和元年 12 月（予定）				
今後の課題等	前期に表出された報告「生態学の展望」のフォローアップとして、大型研究計画、フィールド研究および教育、SDGs への生態科学の貢献などに関する議論や公開シンポジウムなどの活動を具体的に検討していく。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会					
委員長	平田聡	副委員長	湯本貴和	幹事	村山美穂
主な活動	審議内容				
	対象期間中に委員会開催せず				
	意思の表出（※見込み含む）				
	対象期間中に該当なし				
	開催シンポジウム等				
	対象期間中に該当なし				
開催状況	対象期間中に委員会開催せず				
今後の課題等	令和元年 12 月 3 日分科会開催予定。議題「野生動物管理システムの構築と人材養成」				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然人類学分科会					
委員長	山極 壽一	副委員長	馬場 悠男	幹事	河内 まき子
主な活動	審議内容				
	①アジアにおける人類史を総合的に解明する研究を日本が中心になって推進するために、人類学および関連領域の研究体制の強化を図る。				
	②総合的な人類学の発展を目指して、若手研究者の育成を行うとともに高等教育における人類学の教育を強化する。そのために、人類学関連の講義がどのように開かれているかの調査を、日本人類学会・霊長類学会・日本文化人類学会へ依頼する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から」（令和元年 7 月 28 日）				
開催状況	令和元年 7 月 28 日				
今後の課題等	人口爆発や資源浪費によって、また気候変動が引き金になって、欲望充足装置ともいえる現代文明の崩壊が危惧される中で、人類学者が、日本の社会や政府に何を発信するべきか、発信できるかを検討する。				

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 行動生物学分科会					
委員長	辻 和希	副委員長	岡ノ谷一夫	幹事	友永 雅己
主な活動	審議内容				
	役員を選出。1. 国民の科学リテラシー向上と行動生物学、2. 行動生物学における新技術、3. 学際的交流と行動生物学、にかかるとの審議をした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	平成 31 年 3 月 22 日に分科会の会議を開催した。				
今後の課題等	サイエンスカフェまたはシンポジウムを令和 2 年 3 月までに開催する。				

⑬農学委員会



農学委員会					
委員長	大杉立	副委員長	小田切徳美	幹事	仁科弘重・経塚淳子
主な活動	審議内容				
	1. 14分科会は各分野の課題解決へ向け、シンポジウムの開催や提言・報告の作成等を進め、活発に活動している。 2. マスタープラン2020に対しては、多くの分科会提案に加え、5つの分科会合同の提案を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・農業経済学分科会：報告「農業経済学の学部教育のあり方」（平成31年3月13日発出）				

	・応用昆虫学分科会：提言「衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」（平成31年4月9日発出）
	開催シンポジウム等
	令和元年8月に予定していた食料科学委員会との合同会議が予算不足で中止となったため、関連シンポジウムも行わない。
開催状況	平成30年10月3日、平成31年4月24日
今後の課題等	・SDGsへの対応。 ・本年度冬季の食料科学委員会との合同会議とシンポジウムの開催（予定）等。

農学委員会 植物保護科学分科会					
委員長	松本 宏	副委員長	上田一郎	幹事	西澤洋子
主な活動	審議内容				
	(1) 公開シンポジウムの開催および運営について (2) 関連学会の連合体である日本植物保護科学連合との連携について (3) マスタープラン2020への応募と計画の策定手順について等				
	意思の表出（※見込み含む）				
	これまでの毎年のシンポジウムの成果を基に、令和2年度での意思の表出を予定して作業を進める。				
	開催シンポジウム等				
	平成30年12月1日、東京大学において、公開シンポジウム「植物保護学のSDGsへの貢献」を開催した。				
開催状況	分科会を2回開催した（第24期第2回：平成30年9月25日，第3回：平成30年12月1日）。				
今後の課題等	意思の表出に向けた活動				

農学委員会・食料科学委員会合同 IUSS 分科会					
委員長	南條 正巳	副委員長	犬伏 和之	幹事	山本 洋子
主な活動	審議内容				
	International Union of Soil Sciences (IUSS)において日本から2018-2020年（平成30年～令和2年）期会長1名、合計7名の2018-2022年（平成30年～令和4年）期部門長、部会長、部会副会長、及び1名のワーキンググループ長が活動を開始した。特任連携会員を推薦した。2016-2018年（平成28				

	年～30 年) 期 IUSS 会長のラタン・ラル氏が 2019 年度 (令和元年度) 日本国際賞を受賞したことを受けて、下記の記念講演会を企画する。
	意思の表出 (※見込み含む)
	なし
	開催シンポジウム等
	土と持続可能な開発目標 (SDGs) - アフリカの土・市街地の土 - (土壌科学分科会と合同)
開催状況	上記シンポジウムを令和元年 9 月 2 日に実施した。
今後の課題等	上記シンポジウムのまとめ

農学委員会 農学分科会					
委員長	大杉立	副委員長	位田晴久	幹事	片岡圭子、下野裕之
主な活動	審議内容				
	・第 4 回分科会 (平成 30 年 11 月 19 日) で江面会員からゲノム編集について、第 5 回分科会 (令和元年 6 月 21 日) で野口連携会員からスマート農業について話題提供をいただき意見交換を行った。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	今年度は予定無し。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 5 月 10 日、全国大学附属農場協議会と共催で、公開シンポジウム「SDGs の達成に貢献する大学農場のフィールド教育」を開催した。				
開催状況	平成 30 年 11 月 19 日、令和元年 6 月 21 日				
今後の課題等	「我が国の持つ農業資源の潜在力とそれを顕在化するために生産農学ができること」について議論を深め、提言等に繋げる。				

農学委員会 農業経済学分科会					
委員長	小田切 徳美	副委員長	立川 雅司	幹事	清原 昭子 納口 るり子
主な活動	審議内容				

	①報告「農業経済学の学部教育のあり方」の完成（平成 31 年 3 月 13 日に公表）。
	②今期のメインテーマである「農業経済学の新しい分析力を考えるーイノベーション下のデータビリティ（公的統計と個別企画調査）ー」の検討を進めている。特に、農林水産業、農山漁村にかかわる農林水産省等の公的統計のあり方については、いわゆる EBPM（証拠に基づく政策立案）を意識しながらも、公共財としての統計のあり方を具体的に検討した。また、個別企画調査における調査倫理（データの取得・分析・補完・廃棄等）についても、各種情報の収集を行った。
	意思の表出（※見込み含む）
	報告「農業経済学の学部教育のあり方」（平成 31 年 3 月 13 日）
	開催シンポジウム等 未定
開催状況	平成 31 年 3 月 31 日
今後の課題等	検討テーマである「農業経済学の新しい分析力を考える」の意思の表出

農学委員会 農業生産環境工学分科会					
委員長	仁科弘重	副委員長	大政謙次	幹事	北宅善昭、荊木康臣
主な活動	審議内容				
	設置している 5 つの WG（①フェノタイピング植物工場 WG、②都市農業 WG、③生態系・環境モニタリング WG、④気象環境 WG、⑤環境・エネルギー WG）の活動内容を審議し、①と③の WG に関連するシンポジウムを開催し、成果を発信した。マスタープラン 2020 大型研究計画については、2 件を提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	分科会としての意思の表出は、第 24 期では見送り、次期で行う。そのため、本期では各 WG が公開シンポジウムを開催し、研究成果の蓄積、発信を行う。				
	開催シンポジウム等 平成 30 年 12 月 18 日「先端的フェノタイピング技術の農作物生産への実装」 令和元年 5 月 16 日「環境変動にともなう生態系の応答を測る」				
開催状況	分科会を、2 回開催した（平成 30 年 12 月 18 日、令和元年 5 月 16 日）。				
今後の課題等					

農学委員会 地域総合農学分科会					
委員長	宮崎 毅	副委員長	小田切 徳美	幹事	大黒俊哉 武藤由子
主な活動	審議内容				
	平成 30 年 12 月 12 日に第 3 回分科会（メール審議）を開催し、特任連携会員の推薦と、公開シンポジウム「ICT の社会実装に向けた地域総合農学の展望」の提案を可決し、第 275 回幹事会にて特任連携会員の承認を得た。平成 31 年 3 月にマスタープラン 2020 の「SDGs 実現をめざしたスマートフードシステムの構築」共同提案に参画した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「ICT の社会実装に向けた地域総合農学の展望」提言または報告を見込む				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	平成 30 年 12 月 12 日～17 日第 3 回分科会（メール審議）開催 令和元年 8 月 19 日第 4 回分科会開催予定				
今後の課題等	メール審議では協議しにくいので、分科会開催が望ましい。				

農学委員会 土壌科学分科会					
委員長	南條 正巳	副委員長	犬伏 和之	幹事	山本 洋子
主な活動	審議内容				
	「市街地土壌」に関する問題点の整理ならびに発表手段としての「公開シンポジウム」を企画する。「市街地土壌」の概念が新しく且つ広範囲であり、関連学会のシンポジウム「人為圧が決める土壌の境界線」での講演内容や「市街地土壌」に関する著書等の情報収集を進める。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	土と持続可能な開発目標（SDGs）ーアフリカの土・市街地の土ー（IUSS 分科会と合同）				
開催状況	上記シンポジウムを令和元年 9 月 2 日に実施した。				
今後の課題等	上記シンポジウムのまとめ				

農学委員会・食料科学委員会合同 遺伝子組換え作物分科会					
委員長	佐藤文彦	副委員長	大杉 立	幹事	石井哲也、立川雅司
主な活動	審議内容				
	ゲノム編集を用いた育種の技術的進展と社会受容に関して、意見・情報収集、ならびに公開シンポジウムを開催し、提言取りまとめへの議論の深化をおこなっている				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今期中に、「ゲノム編集生物と社会について」に関する提言を取りまとめる予定				
	開催シンポジウム等				
	令和元年7月6日公開シンポジウム「ゲノム編集生物と社会について考える」開催（参加者約150名）、「食の安全と社会；科学と社会の対話」（食料科学委員会/農学委員会 食の安全分科会、獣医学分科会との共同主催を10月予定）				
開催状況	平成30年12月28日、令和元年7月6日				
今後の課題等	幅広いステークホルダーから収集した意見をもとに、議論を深化したいが、分科会の開催が経済的に困難であり、意見集約が難しいことを危惧している。				

農学委員会・食料科学委員会合同 農学分野における名古屋議定書関連検討分科会					
委員長	大杉立	副委員長	三輪清志	幹事	経塚淳子・廣野育生
主な活動	審議内容				
	・平成30年1月22日の提言「生物多様性条約及び名古屋議定書におけるデジタル配列情報の取扱いについて」（日本語及び英語）の発出と「学術の動向」（平成30年9月号）の特集2「海外遺伝資源利用研究の課題および円滑な推進に必要な取り組みについて」の公表後、具体的な活動は行っていない。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今年度は予定無し。				
	開催シンポジウム等				
	今年度は無し。				
開催状況	今年度は開催していない。				
今後の課題等	関連国際会議等での議論を注視し、必要な対応をとる。				

農学委員会・食料科学委員会合同 CIGR 分科会					
委員長	野口 伸	副委員長	澁澤 栄	幹事	清水浩・高山弘太郎
主な活動	審議内容				
	・令和元年9月に札幌で開催される CIGR Section VI シンポジウムに関する審議 ・令和4年12月に京都で開催される CIGR World Congress 2022 に関する審議				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
	2019年農業食料工学会・農業施設学会・国際農業工学会第6部会合同国際大会公開シンポジウム（令和元年9月5日、北海道大学）を主催組織として開催した。				
開催状況	平成30年10月19日（第3回）				
今後の課題等	CIGR World Congress 2022 開催に向けた準備活動の強化				

基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 IUMS 分科会					
委員長	上田 一郎	副委員長	甲斐 智恵子	幹事	桑野 剛一
主な活動	審議内容				
	中川一路教授（京都大学）特任連携会員が国際微生物学連盟（IUMS）理事会に出席したので、韓国で開催予定の国際微生物会議2020について、準備状況の報告を受けた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	無し				
	開催シンポジウム等				
	今年度も日本微生物学連盟と共催して合同シンポジウム開催を推進することが決定され、今後開催テーマの募集を行うこととした。				
開催状況	平成31年4月19日				
今後の課題等	令和2年10月に開催される国際微生物会議2020に向けた日本の対応を協議する。また、今後の我が国の IUMS に対する取り組みを論議する。				

⑭食料科学委員会



食料科学委員会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	甲斐 知恵子	幹事	古谷 研・熊谷日登美
主な活動	審議内容				
	・SDGs対応の一環として2020マスタープランへ5分科会の共同提案 ・第二部予算施行方針と夏季合同会議・シンポジウムの中止、対応を検討 ・日本農学アカデミーとの連携について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第24期・第4回 平成30年10月3日(水) 第24期・第5回 平成31年4月24日(水)				
今後の課題等	SDGs実現のための取り組みについて検討する				

食料科学委員会 水産学分科会					
委員長	古谷 研	副委員長	萩原篤志	幹事	潮 秀樹、都木靖彰
主な活動	審議内容				

	・前年度に引き続き中長期的な水産資源利用のあり方について、天然資源、増養殖、流通加工、消費等について検討。 ・マスタープラン 2020 に向けた水産学分野からの大型研究計画の提案。
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	公開シンポジウム「2050 年の水産資源を日本の食卓から考える」（平成 30 年 11 月 10 日、日本学術会議講堂）を開催。
開催状況	平成 30 年 11 月 10 日、平成 31 年 3 月 1 日、令和元年 5 月 24 日、同年 7 月 19 日
今後の課題等	中長期的な水産資源利用のあり方に関する意思表出に向けた検討。

農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同 IUNS 分科会					
委員長	加藤久典	副委員長	藤原葉子	幹事	熊谷日登美
主な活動	審議内容 2021 年に東京で開催される第 22 回 IUNS 国際栄養会議（ICN）の準備について審議を続けている。2021 年 8 月 4 日から 7 日にバリ島（インドネシア）で開催されるアジア栄養学会議および 10 月 15 日から 18 日にダブリンで開催されるヨーロッパ栄養学会議における第 22 回 IUNS 国際栄養会議の広報活動について審議している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	特になし				
	開催シンポジウム等				
開催状況	平成 30 年 10 月 29 日（月）10:00～11:20 に、日本学術会議において、IUNS 分科会を開催した。				
今後の課題等	第 22 回 ICN の成功に向けてさらに検討を続ける。IUNS 栄養学のリーダーシップ育成国際ワークショップの 4 回目の開催に向けた検討を行う。				

食料科学委員会 畜産学分科会					
委員長	眞鍋 昇	副委員長	吉澤 緑、柏崎直巳	幹事	枝重 圭祐、木村直子、遠野 雅徳
主な活動	審議内容				

	教育・研究における畜産学の特長について、報告の発出と記録のとりまとめを目指して審議するとともに最先端の学術成果を含み最新の諸問題を主題とした教科書の作成などについて審議をすすめた。併せて、公開シンポジウムなどの開催を審議するとともに連学会等との連携について意見交換し、順次実施した。 意思の表出（※見込み含む） 「静かに進行する食料危機：持続可能な畜産物生産のための科学と技術」と題する報告を令和2年度中の発出を目標とする。 開催シンポジウム等 畜産学分科会主催、日本畜産学会、日本畜産学アカデミー、麻布大学共催のシンポジウム「スマート畜産：IoT・人工知能およびロボット技術の利活用・平成31年3月28日」を開催し500名を超える聴衆から好評を得た。他に「アフリカ豚コレラ・平成30年12月28日」、「放牧・酪農による中山間地活性化の可能性を探る・平成31年3月25日」、「産業動物と食の観点からの One Health ・令和元年5月25日」を草地学会、獣医学会、獣医学分科会、食の安全分科会などと主催・共催した。
開催状況	5回開催した（平成30年12月28日、平成31年3月28日、令和元年5月25日メール、令和元年7月18日、令和元年9月18日メール）
今後の課題等	関連学協会の若手研究者の支援と協働プロジェクトの一層の推進。上述したシンポジウムの要旨を令和2年度中に記録として取りまとめる。

農学委員会・食料科学委員会合同 農芸化学分科会					
委員長	熊谷 日登美	副委員長	藤原 葉子	幹事	稲垣 賢二，西山 真
主な活動	審議内容				
	・農芸化学の視点から、生物多様性条約・名古屋議定書に関して討議 ・農芸化学分野における学術大型研究のあり方について議論（農芸化学会から大型マスタープランへ4課題応募） ・サイエンスカフェおよび公開シンポジウム等の啓発活動について検討				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	・公開シンポジウム「農芸化学から持続可能な世界への変革を目指して」（平成31年3月24日，東京） ・公開シンポジウム「農芸化学「化学と生物」シンポジウム：腸内フローラ研究が拓く新たな健康科学と産業」（平成31年3月27日，東京） ・サイエンスカフェ「遺伝子/ゲノムの学び方」（平成30年10月20日，仙台）				

	・サイエンスカフェ「おいしさのサイエンスを体験しよう」 (平成 30 年 10 月 27 日, 藤沢) ・サイエンスカフェ「原発事故から 7 年、福島 of 農作物は大丈夫？」 (平成 30 年 11 月 10 日, 東京) ・サイエンスカフェ「環境を守る！微生物のメタルバイオテクノロジー」 (令和元年 6 月 29 日, 岡山)
開催状況	平成 31 年 3 月 24 日 (木) 12:15~13:30 東京農業大学
今後の課題等	・公開シンポジウムの主催 (共同主催) を今後も積極的に行う。 ・日本農芸化学会が毎年実施している「化学と生物シンポジウム」を当分科会との共同主催とするよう働きかける。 ・サイエンスカフェの共催を, 今後も積極的に行っていく。 ・提言, 報告, 記録等の作成を念頭に, 農芸化学分野が抱える課題等について議論する。

農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	清水 浩	幹事	高山弘太郎, 安永円理子
主な活動	審議内容				
	1. マスタープラン 2020 について議論した。 2. 公開シンポジウムについて議論した。 3. 農業情報システム学分野に関連する 10 年後を見通したロードマップ作成と提言の作成について議論した。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	農業情報システム学分野に関する提言を作成予定である。				
	開催シンポジウム等				
	平成 30 年 12 月 18 日に豊橋技術科学大学にて公開シンポジウム「先端的フェノタイピング技術の農産物生産への実装」を主催した。また, 令和元年 9 月 5 日に北海道大学にて公開シンポジウム「持続可能な開発目標のためのロバストな農業・食料生産」を主催した。				
開催状況	第 24 期・第 4 回 平成 31 年 1 月 18 日 第 24 期・第 5 回 令和元年 5 月 17 日				
今後の課題等	農業情報システム学分野に関する提言について				

農学委員会・食料科学委員会合同 東日本大震災に係る食料問題分科会					
委員長	澁澤 栄	副委員長	眞鍋 昇	幹事	中嶋康博 梅村恭子
主な活動	審議内容				

	・平成30年度開催の公開シンポジウムについて ・東日本大震災による農水産業・関連産業の被災・復旧・復興の実態について ・平成31年度開催の公開シンポジウムの企画について
	意思の表出（※見込み含む）
	予定なし
	開催シンポジウム等
	・公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム2018」平成30年12月21日（日本学術会議）を主催。同内容を『学術の動向』に掲載
開催状況	第24期・第4回 平成30年12月21日（金） 第24期・第5回 令和元年8月5日（月）
今後の課題等	東日本大震災による農水産業・関連産業の被災・復旧・復興に対する科学的な知見の理解醸成

農学委員会・食料科学委員会合同 P S A分科会					
委員長	土屋 誠	副委員長	古谷 研	幹事	印東道子 大越和加
主な活動	審議内容				
	東北大学から依頼があった畑井メダルの授賞候補者の選考に関し、平成31年年1－3月にメールによる意見交換（正式のメール会議ではない）を行い、選考委員会を立ち上げた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	1）東北大学と連携し、畑井メダル受賞者候補の選出を進める。2）日本人研究者が太平洋学術会議へ積極的な参加をするための意見交換を行う。				

食料科学委員会 獣医学分科会					
委員長	高井 伸二	副委員長	杉山 誠	幹事	堀 正敏・芳賀 猛
主な活動	審議内容				

	・学術会議の使命を念頭に、獣医学が社会に果たすべき役割について議論し、関連学会と連携して「One Health」を基本理念にシリーズ化したシンポジウムを開催することとした。 ・「耐性菌」「畜産と獣医学の接点」「新興・再興感染症」「ヒトと動物の疾病モデル」がシンポジウム「One Health」のテーマ候補として挙げられ、二つのシンポジウムを平成30年12月と令和元年5月に食の安全分科会及び畜産分科会と合同で開催した。次回の令和元年10月開催に向けて、シンポジウムの詳細を検討している。 ・シンポジウム内容を取りまとめ、獣医学の学術研究の重要性・必要性の観点から社会への提言とする。 https://www.scj-vetfood.com/blank
	意思の表出（※見込み含む）
	提言「衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」平成31年4月9日
	開催シンポジウム等
	平成30年12月28日開催「アフリカ豚コレラ：家畜に壊滅的被害をもたらした、食料生産への脅威となる感染症～」日本学術会議 講堂 令和元年5月25日開催「産業動物と食の観点からの One health」の開催について」日本学術会議 講堂 https://www.scj-vetfood.com/blank-2
開催状況	第一回 平成30年12月28日 第二回 令和元年5月25日
今後の課題等	One Health をテーマにシンポジウムを開催する予定である。

農学委員会・食料科学委員会合同 食の安全分科会					
委員長	石塚真由美	副委員長	澁澤栄	幹事	芳賀猛・有路昌彦
主な活動	審議内容				
	第24期の活動について、以下の3つの観点から協議を行った。 1) 食の安全にかかわるシンポジウムの企画について 2) 提言に関する検討について 3) その他、食の安全にかかわる国内外の情勢について				
	意思の表出（※見込み含む）				
	シンポジウムを開催後、分科会として食の安全にかかわる提言を作成し、表出する予定である。				
	開催シンポジウム等				

	平成 30 年 12 月 28 日 アフリカ豚コレラ：家畜に壊滅的被害をもたらし、食料生産への脅威となる感染症 令和元年 5 月 25 日 産業動物と食の観点からの One Health 令和元年 9 月 5 日 持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs) のためのロバストな農業・食料生産 令和元年 10 月 5 日 食の安全と社会；科学と社会の対話（予定）
開催状況	第 4 回 平成 30 年 12 月 28 日 第 5 回 令和元年 5 月 25 日 第 6 回 令和元年 10 月 5 日(予定)
今後の課題等	シンポジウム開催後の提言の取りまとめについて行っていく。

⑮基礎医学委員会



基礎医学委員会					
委員長	甲斐知恵子	副委員長	菊池 章	幹事	岡部繁男 今井由美子
主な活動	審議内容 平成30年10月～令和元年9月の期間に2回の基礎医学員会を開催して、下記の審議を行った。 - 分科会活動状況報告について IUBMB 分科会、IUPS 分科会、機能医科学分科会、免疫学分科会、神経科学分科会、総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会、臨床医学委員会合同法医学分科会、統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会の各分科会委員長から活動内容についての報告がなされた。 - 今期の課題について 基礎医学委員会主催のシンポジウム開催を行わないことが確認され、各分科会の活動を活発に行うこととした。 - 夏期部会および公開シンポジウム開催について 第二部会で石川部会長から、今期は予算問題もあり、夏期部会を計画しない旨の説明があった。あわせて、年度末に予算が確保できるのであれば、部会の開催を考慮するとの発言もあった。本内容について異議は				

	なかった。 4、バイオアーカイブ (BioRxiv)について 近年生命科学分野でも始まっている「査読誌に論文を投稿する前にウェブサイトにアップロードする」というオープンサイエンスの在り方について意見交換を行った。
	意思の表出 (※見込み含む)
	現時点での「意思の表出」の予定はない。
	開催シンポジウム等
	開催予定はなく、各分科会で対応することとした。
開催状況	平成30年10月3日(水) 12:30～13:30、日本学術会議5階 5-D会議室(出席者7名、欠席者8名) 平成31年4月25日(水) 12:00～13:15に、日本学術会議1階ロビー(出席者10名、欠席者5名)
今後の課題等	各分科会の活動を活発に行うこととした。

基礎医学委員会 IUPS 分科会					
委員長	久保 義弘	副委員長	本間 さと	幹事	多久和 典子
主な活動	審議内容 3月28日開催のIUPS分科会委員会において、新委員長・新副委員長を上記のとおり決定した。IUPS 執行部メンバーを務める久保委員長・御子柴委員から2021年(令和3年)北京にて開催予定のIUPS2021へ向けて意見を表出していくことを確認した。 意思の表出 (※見込み含む) なし 開催シンポジウム等 2019年(平成31)3月28～31日にIUPSの下部組織であるアジアオセアニア生理学会連合の第9回学術大会FAOPS2019が神戸において開催され、IUPS分科会の鍋倉委員が会長を務めた。大隅良典・Linda B. Buck両ノーベル賞受賞者やIUPS 会長ら、生理科学の各分野を代表する研究者を講演者に迎えての特別講演(9)、各国生理学会との合同開催シンポジウム(83)、教育プログラム等のほか、1000を超えるポスター発表があり、42カ国からの参加者2252名(海外からの参加者723名)であった。				
開催状況	24期第2回委員会を3月28日に開催し、その後メールにて意見交換を継続。				
今後の課題等	IUPS2021 北京の開催を成功に導くための貢献を継続する。				

基礎医学委員会 免疫学分科会

委員長	小安重夫	副委員長	東みゆき	幹事	反町典子、吉村明彦
主な活動	審議内容 本庶佑先生がノーベル賞を受賞したことを受け、これを機会に、免疫学に限定せず、日本の基礎研究がどのようにあるべきかという議論がなされた。 若手支援が拡大する一方、シニアクラスが研究費を取得しにくくなっている問題点も指摘された。それに付随した問題として、若手採択率が高くなり、若手研究者が早期に独立して研究を進められる体制も多々作られているが、一方で、資金だけ提供して若手を教育できているかという点が指摘された。実際独立准教授等のしくみで若手研究者を早期に独立させることが若手の放任につながり、研究の実体における支援不足により若手研究者の生き残りが逆に困難になりつつあるという問題が発生している現実に対して、委員間で認識が共有された。また、若手研究者の優遇があったとしても、特に地方大学においては大学院生を含む若手研究者の確保が著しく困難な状況が報告され、若い研究者がビジョンを持てず、将来が見えない現状では、日本の基礎研究の将来が極めて不安定であるとの指摘があった。 高校の生物教育のカリキュラムが、知識量を最小限に抑え、思考力を高めるカリキュラムへとシフトする方針決定がなされ、高校での生物教育に必要とされる重要用語を絞り込むことが求められている。こうした動きの中で、高校生物においてどのように免疫学を教育していくかは重要なテーマである。資料として配付された、日本学術会議が提案した重要用語のリストにおいて、免疫学用語が古いこと、免疫学の急速な進歩に伴う、新しくかつ重要な用語が反映されていない等の問題点が指摘された。今後教科書の改訂作業が進んでいく中で、重要な用語を絞り込み、29年度時点での重要用語資料を分科会の責任で改良していく必要性が説明され、委員一同の賛同を得た。 意思の表出（※見込み含む） 高校生物においてどのように免疫学を教育していくかは重要なテーマであり、それに対して提言を行うことが必要ではないかとの意見だされ、今後検討していくこととした。 開催シンポジウム等 なし				
開催状況	平成30年12月10日に日本免疫学会総会・学術集会に合わせ、福岡国際会議場にて開催した。出席者17名、欠席者6名。その後12月15～16日に委員長・副委員長・幹事のメール会議を開催し、議事録をとりまとめた。				
今後の課題等	教科書改訂の問題に関し、数人の委員によって情報収集を進め、具体的に選定用語のたたき台を作った上で、分科会内での議論を進めていく方針を決定したが、学会期間以外に分科会を開催する困難を痛感している。				

基礎医学委員会 IUBMB 分科会					
委員長	菊池章	副委員長	中野明彦	幹事	水島昇 五十嵐和彦
主な活動	審議内容				
	IUBMB の地域連合として FAOBMB(アジア・オセアニア生化学分子生物学連合)があるが、2018 年(平成 30 年)9 月に菊池が FAOBMB の President Elect に選出され、2020 年(令和 2 年)1 月から President に就任することが決定した。これを受けて、IUBMB 分科会として FAOBMB との交流を活発にすることが確認された。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	該当なし。				
	開催シンポジウム等				
	第 27 回 FAOBMB Conference が 2019 年(令和元年)8 月 17 日～22 日にマレーシアで開催された。菊池が総会に出席して、水島がシンポジウムで発表を行った。				
開催状況	第 92 回生化学会大会が令和元年 9 月 18 日～20 日に開催されるが、その期間中に分科会を開催する予定である。				
今後の課題等	2027 年(令和 9 年)以降の IUBMB Congress の日本での開催について。				

基礎医学委員会 IUPHAR 分科会					
委員長	飯野正光	副委員長	吉岡充弘	幹事	池谷裕二 上田泰己
主な活動	審議内容				
	● 昨年京都で開催された第 18 回国際薬理学・臨床薬理学会議(WCP2018)における総会で、日本から IUPHAR 副会長として金井好克教授(大阪大学医学部)が選出されたので、本委員会との連携を深めるため本委員会にオブザーバーとして出席していただくこととした。また、日本薬理学会国際対応委員会と連携して活動する。 ● IUPHAR 加盟学会との学術交流について 中国：日中ジョイントミーティングを 2019 年(令和元年)8 月 4～5 日に昆明市で開催 豪州・ニュージーランド：ASCEPT との講師交換－2019 年(令和元年)11 月に ASCEPT 年会に講師派遣(東京大学・池谷裕二教授)、2020 年(令和 2 年)3 月開催の第 93 回日本薬理学会年会への講師招聘(Monash 大学・Denise Wootten 准教授)				

	米国：ASPET 年会（2020 年（令和 2 年）4 月）へ講師派遣（大阪大学・金井好克教授） 英国：BPS 年会（2020 年（令和 2 年）12 月）での合同シンポジウム開催を企画予定
	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	NC-IUPHAR および IUPHAR-PEP の活動を広報するため、第 92 回薬理学会年会（大阪市）においてランチョンセミナーを 3 月 16 日に開催した。
開催状況	平成 31 年 3 月 15 日（第 2 回）
今後の課題等	薬理学の発展を期し、IUPHAR および加盟学会との国際交流をさらに推進して行く。また、8 年後の 2027 年（令和 9 年）は、日本薬理学会創立 100 周年にあたり、これを記念して国際交流をさらに深める事業の準備を進めていく。

基礎医学委員会 ICLAS 分科会					
委員長	入来篤史	副委員長	吉木 淳	幹事	續 輝久
主な活動	審議内容				
	グローバル視点に立った国内外関連学会との協働促進のために JALAS（日本実験動物学会）と ICLAS の連携を強化する方針、国際的に要請の高まっている霊長類を対象とした動物実験に関連するガイドライン整備に積極的に取り組む方針、を確認した。6 月の ICLAS 総会における次期 4 年間の新執行部選挙への日本からの候補者の情報提供について確認し、一連の選挙の結果、入来委員長が副会長に、林元委員が理事に当選した。ICLAS 新執行体制での日本の主導性を発揮するための活動を促進することとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	な し				
	開催シンポジウム等				
	な し				
開催状況	第一回分科会 平成 30 年 11 月 13 日（火）日本学術会議 6 階 6-A 会議室 第二回分科会 平成 31 年 2 月 8 日（金）（内規第 20 条によるメール審議） 第三回分科会 令和元年 9 月 4 日（火）日本学術会議 5 階 5-C 会議室				
今後の課題等	世界のモデルとなるべく、実験動物管理側と使用側それぞれの学協会の相互連携強化などを JALAS と協働して推進する。2023 年（令和 5 年）までの ICLAS 新執行体制下での、総会日本招致の可能性を検討する。				

基礎医学委員会 病原体学分科会					
委員長	桑野剛一	副委員長	岡本 尚	幹事	鎌倉光宏、赤池孝章
主な活動	・ 第 23 期から取り組んでいた提言案の作成が終了し、平成 30 年 10 月に発出手続きのため日本学術会議事務局へ提出した。第二部査読を経た後、平成 31 年 2 月 28 日開催の第 275 回幹事会で本提言案を委員長桑野、副委員長岡本が説明した。幹事会による意見を踏まえ提言案に加筆・修正を加えた後、令和元年 5 月 20 日に本分科会の提言「我が国における微生物・病原体に関するリテラシー教育」を公表(http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t275-1.pdf) した。 ・ 応用昆虫学分科会との共同発出提言「衛生害虫による被害の抑制をめざす衛生動物学の教育研究の強化」が平成 31 年 4 月 9 日に公表された。				
開催状況	平成 31 年 4 月 19 日に本分科会議を総合微生物科学分科会・IUMS 分科会合同会議第 23 回日本微生物学連盟理事会等と合同会議で開催した。				

⑩臨床医学委員会



臨床医学委員会					
委員長	神尾 陽子	副委員長	名越 澄子	幹事	水口 雅 光富 徹哉
主な活動	審議内容 臨床医学の健全な発展は人類に健康とウェルビーイングをもたらすものであり、国民に科学的根拠に基づく医療(EBM)を提供するためには、高いレベルのエビデンスが必要となる。しかしながら最高レベルの大規模介入研究は、それ以前の多数の症例集積や日常臨床における観察研究の積み上げがあつて初めて可能となるものであつて、臨床医学研究全般を健全に推進することが重要である。今般、研究不正防止を主な目的として公布・施行された臨床研究法は、不正防止においては一定の役割を果たす一方で、幅広い臨床研究活動を抑制するという本来の目的とは逆の憂慮すべき影響をわが国の臨床医学領域にもたらした。この事態を深刻に受け止め、当該委員会は、日本医学会連				

	合と連携して、早急に問題解決に向けて必要な活動に向けて検討を開始した。
	意思の表出（※見込み含む）
	基礎生物学委員会・統合生物学委員会・基礎医学委員会合同ゲノム科学分科会が主となり、3つの臨床医学委員会子分科会の共同で提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」を発出した（令和元年7月2日）。
	開催シンポジウム等
	臨床医学委員会の子分科会が主催したシンポジウムは4件開催された。
開催状況	総会会期中1回（平成31年4月24日）
今後の課題等	

臨床医学委員会 臨床研究分科会					
委員長	楠岡英雄	副委員長	名越澄子	幹事	田代志門
主な活動	審議内容				
	COI 管理については臨床研究法の施行により一定の方向性が認められるとの判断により、今期においては臨床研究法や個人情報保護法改正が医療現場に与える影響、例えばコホート研究などの観察研究への影響や重度の認知症等で同意能力を喪失した患者の研究参加の方法についての検討を行うことが決定された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	第1回分科会を平成30年10月25日（木）に日本学術会議6-C会議室にて開催した。				
今後の課題等	非介入研究の審査のあり方等				

臨床医学委員会 腫瘍分科会					
委員長	村川 康子	副委員長	村上 善則	幹事	木村 敏明、清宮 啓之
主な活動	審議内容				

	令和元年 7 月 29 日 第 2 回腫瘍分科会を日本学術会議にて行った。前回議事録要旨の承認に続き、佐々木周作先生からは「行動経済学からみたがん医療」、伊藤泰信先生からは「文化人類学からみたがん医療」の講義をして頂いた。その内容を踏まえてこの分科会ではどのような意思の表出が望ましいかを話し合った。最終的には下記のようなシンポジウムを企画することとなった。
	意思の表出（※見込み含む）
	開催シンポジウム等
	令和元年 12 月 7 日 肺がん学会でシンポジウムを企画（大阪） 仮題：心理学・文化人類学からみたがん治療
開催状況	令和元年 7 月 29 日（第 2 回）
今後の課題等	上記シンポジウムでの参加者の感想を踏まえて今後の活動方針を再検討予定

臨床医学委員会 アディクション分科会					
委員長	池田和隆	副委員長	神尾陽子	幹事	南雅文、宮田久嗣
主な活動	審議内容 ・国内外のアディクション研究・対策の現状に関して、調査すべき項目を選定した。 ・選定された項目について委員で分担して調査し、それぞれレポートを作成した。 ・文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）および日本アルコール・アディクション医学会と連携して、今後必要な研究課題の調査を行った。 ・上記レポートや研究課題について分科会で検討し、提言案を作成し、脳とこころ分科会、神経科学分科会と提言の調整を開始した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言作成。				
	開催シンポジウム等				
	今後シンポジウムを開催する見込み。				
開催状況	平成 30 年 10 月 24 日および平成 31 年 2 月 20 日に分科会開催				
今後の課題等	・脳とこころ分科会、神経科学分科会と提言の調整を行う。部会、幹事会等の助言を基に提言を完成させ、公表する。 ・提言公表後に「学術の動向」誌への投稿を目指す。				

臨床医学委員会 循環器・内分泌・代謝分科会					
委員長	磯部光章	副委員長	門脇孝	幹事	田中敏博
主な活動	審議内容				
	循環器・代謝・内分泌の学術に関する諸問題について議論を行い、論文数の減少、公的研究費の有効利用、医療の情報化（IoT、AI）データサイエンティストの必要性、再生医療の評価の厳格化、地域医療、臨床研究法などの問題点が挙げられた。今後焦点を絞って検討していくことが確認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	開催シンポジウム等				
	2019 年 3 月 21 日公開シンポジウム「心疾患の診療提供体制：循環器病対策基本法制定を受けて」を開催、260 名の参加を得た。循環器対策基本法制定を受けた今後の心不全診療提供体制について公開シンポジウムの中で問題提起と意見表出を行った。				
開催状況	平成 30 年 12 月 26 日第 1 回分科会 平成 31 年 3 月 21 日公開シンポジウム				
今後の課題等					

臨床医学委員会 脳とこころ分科会					
委員長	山脇成人	副委員長	齊藤延人	幹事	池田和隆 戸田達史
主な活動	審議内容				
	マスタープラン 2020、「向精神薬開発の産学官連携の在り方に関する提言」のフォローアップ、今後の活用計画について審議した。公開シンポジウム「スポーツ・運動と脳科学（仮題）」を 11 月 9 日（土）に開催することを審議し、承認された。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	アディクション分科会と連携して「アルコール依存、薬物依存などに関する提言」を表出する見込み。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年 11 月 9 日（土）に「スポーツ・運動と脳科学（仮題）」を開催することを分科会で承認し、幹事会に審議を依頼した。				
開催状況	分科会：平成 30 年 10 月 13 日および平成 31 年 4 月 4 日に、神経科学分科会と合同会議を開催。公開シンポジウム：平成 30 年 10 月 13 日、脳と意識分科				

	会、神経科学分科会、計算シミュレーションと工学設計分科会と共同で、「脳科学と人工知能：その期待と課題」を実施。平成 30 年 11 月 16 日、脳科学関連学会連合将来構想委員会と連携したマスタープラン 2020 について協議、メールで意見交換多数。
今後の課題等	関連分科会との連携、日本脳科学関連学会連合との連携、脳科学研究の将来構想

臨床医学委員会 老化分科会					
委員長	大内尉義	副委員長	遠藤玉夫	幹事	秋下雅弘、荒井秀典
主な活動	審議内容				
	2019 年 4 月 12 日に開催した第 2 回目の委員会において、「活力ある超高齢社会の構築に向けて ー人生 100 年時代の到来ー」というテーマで提言をまとめることとなった。現在の課題を整理し、健康長寿社会構築への医療における課題と目標を明らかとし、健康寿命延伸に向けたフレイル対策、健康長寿社会構築への集学的取組みに関して提言する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	2019 年 4 月 7 日、国立長寿医療研究センターとの共催（日本老年医学会後援）にて、第 30 回日本医学会総会のサテライト企画として、ポートメッセ名古屋において、市民公開講座「明るい超高齢社会を切り開く～日本学術会議からのメッセージ～」（座長 虎の門病院院長 大内尉義(老化分化会委員長)、国立長寿医療研究センター理事長特任補佐 鳥羽研二)を開催した。				
開催状況	2019 年 4 月 12 日				
今後の課題等	提言をまとめる				

臨床医学委員会 移植・再生医療分科会					
委員長	澤芳樹	副委員長	森 正樹	幹事	西田幸二、岡野 栄之
主な活動	審議内容				
	1. 移植、再生医療の両領域における各委員先生方の活動状況（平成 30 年度）をまとめ、報告した（平成 31 年 4 月）。 2. 平成 31 年 2 月 18 日から 24 日にかけて第一回会合（メール審議）を執り行い、下記が承認された。 委員長：澤芳樹				

	副委員長：森正樹 幹事：西田 幸二 幹事：岡野 栄之
	意思の表出（※見込み含む）
	移植、再生医療の発展により重症臓器不全を克服するための提言を発信する予定である
	開催シンポジウム等
開催状況	令和元年8月7日に第二回分科会会議を行った。
今後の課題等	

臨床医学委員会 放射線・臨床検査分科会					
委員長	井上優介	副委員長	増田しのぶ	幹事	青木茂樹、多湖正夫
主な活動	審議内容				
	・前期の提言「CT 検査による医療被ばく低減に関する提言」を受けて平成 31 年 3 月 11 日に医療法施行規則の一部を改正する厚生労働省令が公布され、医療放射線に係る安全管理が病院等の管理者が確保すべき安全管理体制の中に位置付けられ、医療被ばく低減に向けて大きく前進することになった。 ・CT 検査の画像診断報告書が適時に利用されずに適切な診療がなされなかった事例が社会問題になっていることを受けて審議を行い、CT 検査による画像診断情報の活用に向けた提言の案をまとめた。 ・臨床検査では、検査試薬の違いから同じ検体を測定しても施設間で検査値が異なる場合があることが問題になっている。施設間での検査値の共有化を実現するための方策を提言すべく審議している。 ・人工知能 AI が臨床医療に大きな影響を与えることが予想されている。シンポジウム「人工知能時代の放射線画像診断・病理診断と専門医のあり方」を令和元年 10 月 28 日に開催予定であり、準備を進めている。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言案「CT 検査による画像診断情報の活用に向けた提言」について第二部への査読依頼を行った。				
	開催シンポジウム等				
	なし				

開催状況	平成 30 年 10 月 22 日、平成 31 年 2 月 4 日、平成 31 年 4 月 15 日
今後の課題等	・CT 検査による画像診断情報の活用に向けた提言を発出し、提言内容の具現化につとめる。 ・臨床検査データの共有化に向けて審議を深め、提言をまとめる。 ・AI に関わるシンポジウムを開催し、診断専門医のあり方について協議する。

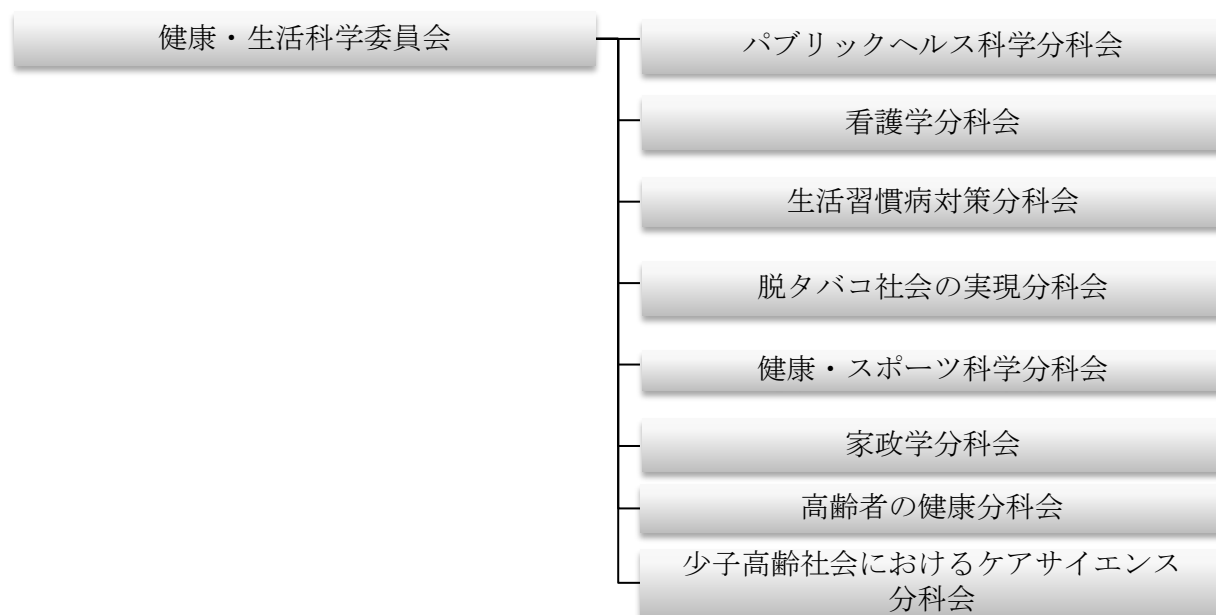
臨床医学委員会 放射線防護・リスクマネジメント分科会					
委員長	米倉義晴	副委員長	續 輝久	幹事	神田玲子、井上優介
主な活動	審議内容				
	前期に表出した報告「子どもの放射線被ばくの影響と今後の課題ー現在の科学的知見を福島で生かすためにー」の次の段階として、今期において議論すべき内容を検討し、初年度のリスクコミュニケーションの課題に引き続いて、今年度は医療被ばくに関する行政の取り組みと、放射線に関する医学教育の問題について議論を進めた。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	今後、これまでの提言や報告を受けた新たな提言の作成を予定。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	平成 30 年 12 月 21 日、令和元年 6 月 28 日				
今後の課題等	放射線の健康影響に対する様々な考え方がある中で、福島の復興に取り組んでおられる専門家の意見や医療関係者の意見を参考に、保健医療関係者に向けた提言を検討				

基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 法医学分科会					
委員長	藤田 眞幸	副委員長	西谷 陽子	幹事	橋本 優子
主な活動	審議内容				
	若手医師の進路に関する動向をさぐるアンケートを実施することとし、その内容について検討を進めた。小規模の集団で予備的なアンケートを実施し、その結果をもとに、本調査を進めることとした。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	なし
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	平成 31 年 2 月 28 日 第 3 回・令和元年 9 月 29 日 第 4 回(メール審議)
今後の課題等	若手医師の進路の決定に関する動向に基づいた法医学を志す若手医師の確保のための戦略・現状の法医学に関係する制度の問題点と改善案の提言・法医学の重要性に関する国民の理解を深める活動の推進

臨床医学委員会 臨床ゲノム医学分科会					
委員長	福島義光	副委員長	尾崎紀夫	幹事	櫻井晃洋
主な活動	審議内容				
	臨床ゲノム医学は既存の診療科や専門領域の枠組みを超えた横断的な視点で考える必要があり、平成 30 年度に新たに設立された分科会である。臨床医学のさまざまな領域（臨床遺伝学、希少難病、内科学、神経学、精神医学、周産期医学、腫瘍学、病理学、ゲノム科学、等）の識者によって構成される本分科会で、そのあり方を審議する。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」（ゲノム科学分科会と合同）				
	開催シンポジウム等				
	日本学術会議・東京大学ゲノム医科学研究機構 公開シンポジウム「ゲノム医療・精密医療の多層的・統合的な推進」（令和元年 6 月 1 日（土）、於 東京大学理学部 小柴記念ホール）				
開催状況	第 1 回 H30/9/20（木）16：00—18：00 於 日本学術会議 第 2 回 H31/2/9（木）14：00—16：00 於 日本学術会議 第 3 回 H31/4/5（金）15：00—17：00 於 日本学術会議				
今後の課題等	ゲノム医学・医療に関係する人材の育成、一般市民のリテラシーの向上、研究基盤構築等について、関連学会と協力して推進する。				

⑰健康・生活科学委員会



健康・生活科学委員会					
委員長	片田 範子	副委員長	秋葉 澄伯	幹事	宮地元彦 小松浩子
主な活動	審議内容				
	本委員会は健康・生活科学分野における学術に関する事柄を扱う。主として次の課題に取り組んだ。 1) 「これからのいのちと健康と生活をまもる」をめざし、取り組むべき今日的課題について検討した。 2) 「これからのいのちと健康と生活をまもる」をメインテーマに、SDGsの視点に立ったシンポジウムの企画を検討・計画した。 3) 第24期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（MP2020）の策定方針を検討し「Society 5.0の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」を計画・申請を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	公開シンポジウム「子どもの戸外遊びが消滅！？遊びへの社会的介入としての移動式遊び（プレーバス）」心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会 公開シンポジウム「水環境中における医薬品及びパーソナルケア製品				

	(PPCPs)に関する最近の動向」健康生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会
開催状況	第4回平成30年10月3日 第5回平成31年4月24日
今後の課題等	「これからのいのちと健康と生活をまもる」をテーマに実施しているシンポジウムの論点について、集中的な討議を行い、提言あるいは報告として発出する。

健康・生活科学委員会 看護学分科会					
委員長	片田範子	副委員長	小松浩子	幹事	西村ユミ、井上智子
主な活動	審議内容				
	看護学分科会として、ケアサイエンス班をベースに「少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会」の立ち上げに全面協力した。高度実践看護職班、地元創生班の活動内容推進のための討議を行った。また第24期学術の大型研究計画におけるマスタープラン「学術大型研究計画」を提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「高度実践看護職の裁量権拡大に関する提言（仮）」提出予定				
	開催シンポジウム等				
	地元創生班：シンポジウム開催予定				
開催状況	平成30年12月18日（火）、平成31年3月1日（金）、令和元年5月17日（金） 計3回開催				
今後の課題等	少子高齢の次に来る社会の中で、介護と福祉も包括したケアと看護、そして医療の在り方の将来像を描いていく。				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会					
委員長	八谷寛	副委員長	磯博康	幹事	藤原葉子 児玉浩子
主な活動	審議内容				
	表出予定の提言の骨子案についてメールでの意見交換を行った。また、文部科学省担当審議官を分科会に要請し、改訂学習指導要領と小中高における食育・健康教育に関する問題についてヒアリングを実施した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	「幼小児期から思春期・若年成人期における生活習慣病予防と健康増進」（表出の見込み）				
	開催シンポジウム等				

	令和元年 5 月 18 日（土）市民公開シンポジウム「小児期・青年期からの食生活習慣の見直しと生活習慣病予防」（静岡県静岡市）
開催状況	平成 30 年 11 月 28 日（水）15：00～17：00 令和元年 6 月 26 日（水）15：00～17：00
今後の課題等	提言案に対する関連学会や研究者等の意見を聴取し、提言に反映する予定である。

健康・生活科学委員会・歯学委員会合同 脱タバコ社会の実現分科会					
委員長	秋葉澄伯	副委員長	村上伸也	幹事	井上真奈美
主な活動	審議内容				
	以下がおもな審議項目である。 こどもの喫煙対策 加熱式タバコ、電子タバコなどの新式タバコへの対策 タバコの使用と歯周病リスク				
	意思の表出（※見込み含む）				
	以下の標題の提言案を作成し、分科会メンバーでメールでの議論を行った。 8 月 9 日に対面での分科会を開催し、審議を行った。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	本年度は、8 月 9 日に開催。				
今後の課題等	こどもの喫煙対策、加熱式タバコ・電子タバコなどの新式タバコへの対策、タバコの使用と歯周病リスクなどについて議論する。				

健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会					
委員長	田原淳子	副委員長	川上泰雄	幹事	宮地元彦、來田享子
主な活動	審議内容				
	次の 3 つのワーキンググループを設定し、活動を行なっている。①スポーツに関わる史料・文化財・多様な情報の保護・管理に関する検討、②健康寿命の延伸・パラアスリートの環境整備に関する検討、③体育・身体活動・スポーツの内在的価値およびターミノロジー・オントロジーに関する検討。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				

	開催シンポジウム等
	平成 31 年 1 月 12 日に「緊急公開シンポジウム 2019『我が国におけるスポーツの文化的アイデンティティ再考』」を開催した。
開催状況	平成 31 年 1 月 12 日、令和元年 7 月 31 日
今後の課題等	上記ワーキンググループの活動内容を中心としたシンポジウムを開催予定である。

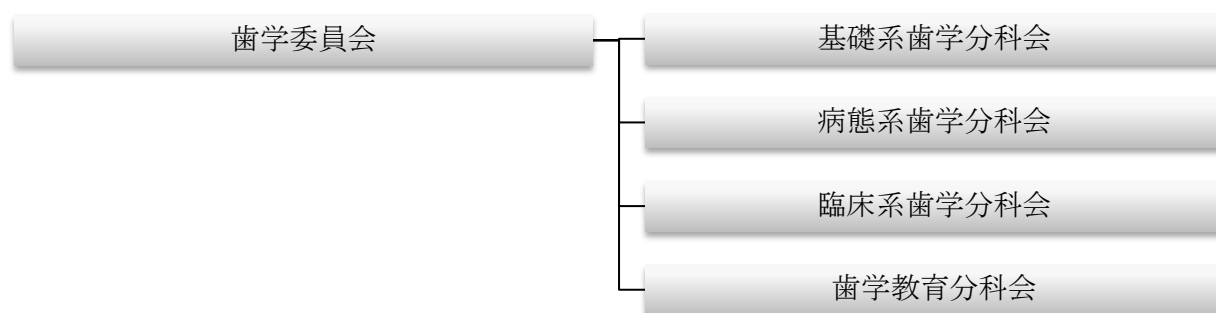
健康・生活科学委員会 家政学分科会					
委員長	小川宣子	副委員長	塚原典子	幹事	倉持清美 都築和代
主な活動	審議内容				
	・衣・食・住生活に関わる各種資格士の現状・社会に対する貢献度・今後の課題等について養成課程を於いている家政系大学にアンケート調査を実施し、より社会に貢献出来る資格士の育成を目指したカリキュラム案の改訂・指導教員の育成、さらには家政学の研究教育の将来展望等に関する提言の表出に向け審議をしている。 ・本分科会と生活科学(=家政学)関連学協会との連携を目指して設立した「生活科学系コンソーシアム www.seikatsuconso.jp/」の活動についても審議し、支援した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	提言「生きる力の更なる充実を目指した家庭科教育への提案ーより効果的な家庭科教育の実現に向けてー」を表出（平成 30 年 12 月 14 日）				
	開催シンポジウム等				
	・家政学分科会主催シンポジウム「生活によりそう家政学ー衣生活を支える被服学における資格士教育の位置付ー」開催（平成 30 年 10 月 27 日：日本女子大学 参加者 44 名） ・生活科学系コンソーシアム主催のシンポジウム「生活によりそう家政学ー行政からの家政学への展望ー」（平成 30 年 12 月 22 日、日本女子大学）、及び生活科学系博士課程論文発表会（平成 31 年 3 月 19 日、共立女子大学）を開催した。				
開催状況	平成 30 年 10 月 22 日、12 月 26 日、令和元年 5 月 14 日、9 月 6 日				
今後の課題等	提言作成のための関係所管などとのヒヤリング・関連学協会等への情報発信・表出した提言の認知や連携を図るために関係する行政とのシンポジウム等を実施して来たが、十分とは言えないので、さらなる努力を重ねたい。				

健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会					
委員長	長田久雄	副委員長	住居広士	幹事	須田木綿子 田高悦子
主な活動	審議内容				
	昨年の２回の分科会を受けて、「持続可能な健康長寿社会に向けて取り組む個人レベルの課題と個人を取り巻く社会レベルの課題とは何か」に関して、インターネットにより各委員から意見を聴取し、end of life、frail 等に関して令和元年 11 月から 12 月に分科会を開催し意見を集約している。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	最終的には、報告書を作成する予定であるが、可能であれば、提言にすることも検討している。				
	開催シンポジウム等				
	未定				
開催状況	平成 30 年 11 月 18 日に委員に対して e-mail にて意見の提供を依頼、令和元年 6 月 10 日に意見集約の結果を送付、令和元年 12 月 13 日に分科会開催予定。				
今後の課題等	本分科会の主題である、持続可能な健康長寿社会に向けて取り組むべき個人レベルの課題と個人を取り巻く社会レベルの課題に関して検討し方向を見出すことが今後の課題である。				

臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 少子高齢社会におけるケアサイエンス分科会					
委員長	小松 浩子	副委員長		幹事	井上智子・西村ユミ
主な活動	審議内容				
	1. 当事者主体のケア社会の構築に向けた横断的学術基盤形成をめざし、看護学、哲学、社会福祉学、経済学などの領域とケアサイエンスの関係を議論した。 2. 少子高齢社会を支える「ケアサイエンス」の教育・研究の在り方に関する提言発出をめざし、概念整理と実装の具体例について検討した。 3. マスタープラン 2020 に対し、「Society 5.0 の核となるケア・イノベーションの研究基盤ネットワーク拠点」を提案し、健康・生活科学委員会から提出した。 4. 「日本の展望 2020（仮称）」への意見を検討し提出した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				

	なし
開催状況	平成 30 年 11 月 26 日、平成 31 年 1 月 24 日、3 月 4 日：メール、令和元年 5 月 17 日
今後の課題等	多分野の執筆者とともに「少子高齢社会を支えるケアサイエンス」の提言発出

⑩歯学委員会



歯学委員会					
委員長	丹沢 秀樹	副委員長	市川 哲雄	幹事	西村 理行
主な活動	審議内容				
	シンポジウムのテーマと開催予定を審議した。 多施設共同調査研究（2 課題：「歯科医療の医科総合病院における現状と需要、 ならびに望まれる総合的医療体制」、「周術期口腔機能管理の効果」）を実施、 分析し、論文と提言を審議・作成中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	多施設共同調査研究（2 課題）を基にした提言を完成する予定である（歯学 委員会、臨床系歯学分科会、病態系歯学分科会共同）。				
	開催シンポジウム等				
	平成 31 年 4 月 21 日「急性期医療および地域包括ケアの他職種共同の中で、 歯科医師の果たす役割は？」（川越市）（歯学委員会、歯学教育文化会共同）				
開催状況	平成 31 年 2 月 22 日 シンポジウム開催にかかるメール会議				
今後の課題等	今回の調査研究は日本口腔科学会（日本医学会第 31 分科会）との共同事業で あり、今後も学協会との共同により、実際に調査・研究などを実施して報告・ 提言などを発出する活力ある体制を確立する。				

歯学委員会 基礎系歯学分科会					
委員長	東 みゆき	副委員長	西村 理行	幹事	石丸 真澄
主な活動	審議内容				
	- 第 24 期分科会テーマ 「口腔と全身のネットワーク」にそって、令和元年度のシンポジウムテーマとオーガナイザーを決定 - マスタープラン 2020 の方針と応募に関する議論 - 口腔科学研究への若手基礎研究者育成と活用、一般社会への認知を目指す				

	意思の表出（※見込み含む）
	なし
	開催シンポジウム等
	歯科基礎医学会日本学術会議シンポジウム「口腔と全身のネットワーク ～最先端研究—免疫・神経・内分泌～」令和元年10月14日予定
開催状況	メール会議（平成31年12月—3月） 令和元年10月14日予定（シンポジウム開催時期遅れのため）
今後の課題等	若手基礎研究者の育成活動、口腔科学研究の重要性の社会への認知推進

歯学委員会 病態系歯学分科会					
委員長	岡本 哲治	副委員長	品田 佳世子	幹事	丹沢 秀樹
主な活動	審議内容				
	シンポジウムのテーマと開催予定を審議した。 多施設共同調査研究（2課題：「歯科医療の医科総合病院における現状と需要、ならびに望まれる総合的医療体制」、「周術期口腔機能管理の効果」）を実施、分析し、論文と提言を審議・作成中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	多施設共同調査研究（2課題）を基にした提言を完成する予定である。				
	開催シンポジウム等				
	なし				
開催状況	なし				
今後の課題等	今回の調査研究は日本口腔科学会（日本医学会第31分科会）との共同事業であり、今後も学協会との共同による活力ある体制を確立する。				

歯学委員会 臨床系歯学分科会					
委員長	市川哲雄	副委員長	村上 伸也	幹事	馬場 一美
主な活動	審議内容				
	日本歯学系学会協議会の協力の下、臨床系歯学関連学会に国民および他の学術領域に発信したい事項を調査し、データ整理を行った。今後これを元に、臨床系歯学の展望についてのシンポジウム等を審議中である。 歯学委員会とともに、多施設共同調査研究（2課題：「歯科医療の医科総合病院における現状と需要、ならびに望まれる総合的医療体制」、「周術期口腔機能管理の効果」）を実施、分析し、論文と提言を審議・作成中である。				
	意思の表出（※見込み含む）				

	歯学委員会、病態系歯学分科会共同多施設共同調査研究（２課題）等を基にした提言を完成する予定である。
	開催シンポジウム等
	なし
開催状況	なし
今後の課題等	今後は、臨床系歯学の「新たな臨床指標の確立と健康対策としての重症化予防」の観点から、報告・提言などを発出する活力ある体制を確立したい。

歯学委員会 歯学教育分科会					
委員長	前田 健康	副委員長	古谷野 潔	幹事	市川 哲雄
主な活動	審議内容				
	今期の分科会テーマ「歯科保健医療の需要に対応した人材育成、質保証」に基づき、シンポジウムのテーマを審議し、平成 31 年度の早い時期にシンポジウムを開催することとし、多職種協働の中で歯科医師の果たすべき役割および歯学教育の方向性について意見交換を行った。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	なし				
	開催シンポジウム等				
	平成 31 年 4 月 21 日「急性期医療および地域包括ケアの他職種共同の中で、歯科医師の果たす役割は？」（川越市）				
開催状況	平成 31 年 2 月 22 日 シンポジウム開催にかかるメール会議				
今後の課題等	多様な社会ニーズに対応できる人材育成のための報告書の発出				

⑱薬学委員会



薬学委員会					
委員長	望月 眞弓	副委員長	佐治英郎	幹事	
主な活動	審議内容				
	・薬学委員会の所掌する各分科会の活動について情報共有した。 ・分科会同士および薬学委員会との連携について議論した。 ・学術会議の今年度の活動方針の情報共有した。				
	意思の表出（※見込み含む）				
	・生物系薬学分科会、医療系薬学分科会から学術会議叢書 25（IT・ビッグデータと薬学）を 2019 年 2 月に発刊 ・医療系薬学分科会：薬学雑誌 139（3）：393-417（2019）にシンポジウム「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」を論文発表 ・薬剤師職能とキャリアパス分科会、薬学教育分科会、医療系薬学分科会から提言または報告を提出する予定。				
	開催シンポジウム等				
	・医療系薬学分科会：シンポジウム「ビッグデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」（平成 30 年 11 月 20 日） ・物理系薬学分科会：シンポジウム「創薬の加速化を担う構造生物学の最前線」（平成 30 年 11 月 21 日） ・生物系薬学分科会：シンポジウム「生体イメージングから創薬へ」（平成 31 年 1 月 18 日）、「次世代ビックデータ研究の潮流（仮題）」（令和 2 年 1 月 17 日予定） ・薬剤師職能とキャリアパス分科会：シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」（令和元年 8 月 3 日） ・医療系薬学分科会：シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」（令和 2 年 3 月予定）				
開催状況	平成 30 年 10 月 4 日、平成 31 年 4 月 25 日				

今後の課題等	日本の展望 2020 への薬学分野の意見集約、薬学における基礎研究力の強化、女性研究者に対する支援、超高齢社会における医薬品の適正使用など
--------	---

薬学委員会 化学・物理系薬学分科会					
委員長	嶋田一夫	副委員長	永次 史	幹事	佐治英郎、樋口恒彦
主な活動	審議内容・経過				
	・ 今後の化学・物理系薬学領域の人材育成のありかたに関して審議した。 ・ 化学・物理系領域における今後の研究の方向性に関して審議した。				
	意思の表出（予定の場合は時期も）				
	今後の化学・物理系薬学領域の研究・教育の方向性について検討した。				
	開催シンポジウム等（予定も含む）				
	薬学委員会生物系薬学分科会、化学委員会・物理委員会合同結晶学分科会と共催でシンポジウム「創薬の加速化を担う構造生物学の最前線」を H30 年 11 月 21 日に開催した。参加者はおよそ 80 名であった。				
分科会開催状況	R 元年 5 月 10 日開催				
現時点での成果、課題等	前記公開シンポジウムを開催した。 次回の分科会で公開シンポジウムの振り返りを行う予定である。				

薬学委員会 生物系薬学分科会					
委員長	土井健史	副委員長	一條秀憲	幹事	井上純一郎、笠原 忠
主な活動	審議内容・経過				
	・ 現在及び今後注目される生物系薬学領域における研究について、話題提供、意見交換を行い、令和元年度のシンポジウムを令和 2 年 1 月 17 日（金）に、日本学術会議講堂で開催すること、実行委員長に新井洋由委員とすること、テーマを岡田随象先生の研究（遺伝統計学）を中心に行うことを決定した。 ・ また、令和 2 年度のシンポジウムについて、実行委員長を藤田直也委員に決定し、令和 3 年 1 月に開催することにした。 ・ マスタープランについての情報を共有した。				
	意思の表出（予定の場合は時期も）				
	開催シンポジウム等（予定も含む）				

	・平成31年1月18日(金)13時から17時まで、日本学術会議に於て「生体イメージングから創薬へ」というテーマでシンポジウムを開催した(実行委員長:三浦正幸委員、6名の講演者)。
分科会開催状況	・平成31年1月18日(金)11:30~12:30 日本学術会議会議室
現時点での成果、課題等	・笠原委員により、平成29年1月13日に開催した生物系薬学分科会主催のシンポジウム「ITと創薬の融合 ビッグデータとスーパーコンピューティングで生命現象を解く」の内容を学術会議叢書にまとめていただいた。

薬学委員会 医療系薬学分科会					
委員長	寺崎 哲也	副委員長	高倉 喜信	幹事	入江 徹美、伊藤 美千穂
主な活動	審議内容				
	・平成30年11月20日開催の公開シンポジウムの演者を執筆者(第二部)として、学術会議叢書25「IT・ビッグデータと薬学-創薬・医薬品適正使用への活用-」(編集協力 日本学術会議事務局・公益社団法人日本薬学会)を平成31年2月25日に発行した。 ・平成30年3月に日本薬学会との共同主催で開催したシンポジウム「社会に貢献する医療系薬学研究の推進」をまとめた内容を「薬学雑誌 139(3):393-417(2019)」に誌上シンポジウムとして論文発表した。 ・全国国公立大学薬学部を対象に「薬学におけるセルフメディケーションと品質保証に関する教育(仮題)」に関するアンケートを実施する方向で、調査内容を審議した。 ・シンポジウム「健康食品・保健機能食品・医薬品の品質保証に関する薬学的アプローチ」を令和2年3月に日本薬学会と共同主催で開催する方向で、討論内容を審議した。				
	意思の表出(※見込み含む)				
	開催シンポジウム等				
	・平成30年11月20日、日本薬学会との共同主催で公開シンポジウム「ビッグデータの創薬と医薬品適正使用への活用に向けた提言」を学術会議講堂にて開催し、約150名が出席した。				
開催状況	分科会を平成30年11月20日、令和元年6月11日に開催した。				
今後の課題等	令和元年11月までに集計予定のアンケートと、令和2年3月に開催予定のシンポジウムと、分科会での討論を通じ「医薬品や保健機能食品等の品質保証やレギュレーションに関連する課題」を整理し、報告書作成の準備を行う。				

食料科学委員会・基礎医学委員会・薬学委員会合同 毒性学分科会					
委員長	菅野純	副委員長	姫野誠一郎	幹事	上田佳代、石塚真由美
主な活動	審議内容				
	1. 提言案作成に向けて、下記のシンポジウムを企画中である。 (ア) 複合曝露 (exposome) と Human biomonitoring : ①複合曝露 (exposome) のコンセプト、および、海外での進行状況／②我が国における Human biomonitoring の状況／③米国 NHANES 等海外における Human Biomonitoring の状況／④Exposure level の推定 (イ) 「毒性学は世の中でどのような役割を果たしているか？」 ①パブリックコメント低調にみる国民意識レベル／②企業のニーズとしての毒性情報／③毒性情報源の現状 (1. 日本におけるアカデミアに占める毒性学研究の弱体化と発展的展望の欠如、2. 国際比較) (ウ) 子どもの情動認知行動障害 ①文部科学省の認識／②厚生労働省の認識／③現状分析／④毒性学的考察 2. カフェインによる中毒・死亡事故の発生を重要視し、オブザーバーの上條吉人先生 (第 41 回日本中毒学会年会長) 等と対応を議論した。菅野委員長が日本毒性学会の連携小委員会委員長であること、日本毒性学会と日本中毒学会の間で覚書が既に交わされていることに鑑み、第 41 回日本中毒学会において、カフェイン中毒について日本中毒学会と日本毒性学会との合同シンポジウムを開催する方向で両学会連携委員会で調整することとした。				
	意思の表出 (※見込み含む)				
	上記 1. のシンポジウムでの討論内容を踏まえ、24 期中を目標に提言を発出する方向で取り組む予定である。				
	開催シンポジウム等				
	令和元年度の秋に最初のシンポジウムを開催する方向で検討中。				
開催状況	分科会を平成 30 年 9 月 13 日に開催した。以後は、適宜メールで意見交換。				
今後の課題等	提言案の作成				

薬学委員会 薬学教育分科会					
委員長	太田 茂	副委員長	奥 直人	幹事	堤 康央、 伊藤 美千穂
主な活動 (今後の計画も含む)	審議内容・経過 薬学分野での教育課程編成上の参照基準を作成することを目的に議論を行っている。すでに 4 年制薬学教育課程に対する参照基準は作成されているので、現在は 6 年制薬学教育課程も含めた薬学領域全般に対する参照基準の作成を目指している。				

	意思の表出（予定の場合は時期も）
	薬学分野での教育課程編成上の参照基準を公表 第24期終了時
	開催シンポジウム等（予定も含む）
	令和2年1月 薬学分野での参照基準に関するシンポジウム（予定）
分科会開催状況	平成30年10月10日 第3回、平成31年3月7日 第4回
現時点での成果、課題等	現在参照基準の叩き台を作成し、討議を行っている。

薬学委員会 薬剤師職能とキャリアパス分科会					
委員長	安原 真人	副委員長	入江 徹美	幹事	矢野 育子
主な活動 （今後の計画も含む）	審議内容・経過				
	薬剤師レジデント制度について、参考人の意見をうかがった。 薬局の機能分化、調剤の定義等と薬学教育に関するシンポジウムを開催した。 薬剤師職能のビジョンを整理するとともに、薬剤師職能を支える卒後レジデント制度と専門薬剤師制度に関する意見を表出する。				
	意思の表出（予定の場合は時期も）				
	提言/報告を今期中に取りまとめる。				
	開催シンポジウム等（予定も含む）				
	公開シンポジウム「薬剤師が担う日本の医療と薬学教育」の開催（令和元年8月3日）				
分科会開催状況	平成30年10月11日、令和元年8月3日				
現時点での成果、課題等	厚生科学審議会（医薬品医療機器制度部会）の議論に基づく薬機法等の改正案への対応				